



# 11月の園だより

令和5年11月 1日  
目黒区立目黒本町保育園長

空が少しずつ高くなり、秋の深まりを感じます。運動会ではご多忙の中、多数参加していただきありがとうございました。子どもたちは保護者の方と一緒に広い場所で体を動かす楽しさや保護者の方の暖かい声援をうけて一人ひとりができたという達成感や友達と心を合わせてやり遂げた充実感を味わい心と体がまた一つ成長したように感じます。

先日園庭で焼き芋会を行いました。朝から炭を起こして煙が出始めると興味津々で園庭を眺めていた幼児クラスの子もたちは保育士の合図で園庭に出ました。靴を履くスピードがいつもと違う姿に子どもたちの期待度の高まりが伝わります。保育士がアルミ箔に包むなど焚火に入れるまでの工程の説明をすると目を輝かし夢中で聞き、無事自分で芋を焚火の中に投げ入れることができました。焼ける頃になると室内で遊んでいた乳児クラスも自分たちのテラスに出てきて「熱いから少し待っててね」と声をかけられ、焼き芋の到着を身動きしないでわくわくした表情で待っていました。焼き立ての芋はとても甘くて、おかわりコールがそれぞれのクラスから聞こえてきました。それぞれの年齢の発達は違いますが、焼ける時間を友達と一緒に味わう待ち遠しい時間、友達や保育士と戸外で食べる焼き芋の温かさやおいしさなど子どもたちが感じた様々な感覚は達成感や充実感の中から生まれてきているように感じます。保育園ならではの経験をこれからも大切にしていきたいと思えます。

今月も引き続き保育参観や面談を行います。保護者と保育園が子どもの姿を共有し、一緒に成長を喜びながら子育ての話ができる有意義な時間になったら幸いです。

## <行事予定>

交通安全教室 (5歳児)  
歯科検診 (全園児)  
身体計測・避難訓練



## うさぎ組(2歳児) 【友だちと一緒に楽しいな】

一人の子が赤ちゃんに見立てた人形を布団にくるみ抱っこしていると「あっ大変、赤ちゃん足が痛くて、どうしよう」と困った表情をしていました。保育士が「足痛いの、お医者さんいるかな」と声をかけると、そばにいた子がペットボトルと細長いフェルトを持ってきて「はい、薬とばんそうこう」と持ってきてくれました。保育士が「お医者さんですか。お薬塗ってもらえますか」と声をかけると「いいですよ」とお医者さんごっこが始まりました。聴診器に見立てたチェーンリングを首から下げてお医者さんになりきって「どこが痛いですか」と聞いています。「ここが痛いです」と人形の足を指さすとそこにやさしく薬を塗り、ばんそうこうのフェルトを足に巻いていました。その様子を見ていた子ども達は、人形を抱っこして「この子、お腹が痛いです」と次々に病院にやってくる患者さんでいっぱいになりました。

日頃の生活の経験を、保育士が仲立ちしてやり取りをつなげてあげることで友達同士楽しんで遊ぶ姿が増えてきました。保育士もイメージを大切にしながら友達や保育士と一緒に遊ぶことが楽しいと感じられるようにしていきたいと思えます。





## 3・4・5 歳児の戸外遊びの様子



### こぐま組(3 歳児クラス)

園庭で、らいおん組がリレーの練習で使った白線のトラックに気づいた子が「何でこぐま組はリレーをしないの、リレーしたい」と声が上がりました。その言葉に保育士が「そうだね、こぐま組もみんなでこぐまりレーしてみようか」というと嬉しそうに「うん」と頷きやってみるようになりました。バトンは近くにあった空のペットボトルを用意して、こぐまりレーがスタートです。始めてみるとトラックの内側を走ってみたり、バトンを渡す相手が毎回違っていたりしますが、まるでらいおん組になったかのような気持ちがいきいきした



表情から伝わってきます。バトンを渡すときは「はい」と言いながら嬉しそうに次の友達に渡し、バトンを受け取りたくて後ろに手を伸ばし「はい、はい、はい」と大きな声を出し待っている子もいます。友達に繋ぐバトン渡しが楽しくて、意気揚々に走っていました。年長クラスへの憧れから自分たちも同じようにやりたい、やってみたいという気持ちになっています。たくさん刺激をもらい憧れを持つ子どもたちの思いに寄り添いながら一緒に楽しく遊んでいきたいと思います。

### ぞう組(4 歳児クラス)

園庭に出ると、らいおん組の友達が相撲遊びを楽しんでいました。その様子に気づき、土俵の周りに行って相撲の取り組みを見て応援しています。一緒に応援していた保育士が「最近みんなご飯もりもり食べているから、先生と同じくらい強いかもしれないね」とつぶやくと、「えー、僕のほうが強いよ。先生相撲しよう」と保育士と相撲をとって遊びます。夏前に比べ、押す力や、押されても諦めずにぐっと踏ん張る力が強くなっていました。勝てたことをきっかけに列に並び、保育士とだけでなく友達とも相撲の取り組みを始めました。楽しみながらもお互いに真剣に相撲を取っているため、土俵から出てしまうと涙を見せたりテラスに座って悔しさを見せたりする姿もあります。涙を見せしやがむ子どもに保育士が「真剣にお相撲していたから悔しいって気持ちがあるんじゃないかな。でも、すごくいい勝負だったよ。諦めずに踏ん張っていたから次はもっといい勝負になって勝てるかもよ」と声をかけると「もう一回」と言って涙を拭いて列に並び直していました。春先は保育士相手に楽しんでいた相撲遊びを勝ち負けだけでなく友達と真剣に取り組む姿勢に悔しさだけでなく決着がなかなかつかない面白さや頑張りを子どもたちから感じています。



### らいおん組(5 歳児クラス)

運動会が終わり、春先から楽しんでいる相撲の取り組みに夢中になっていました。ある日、横綱と呼ばれている相手に挑戦した子がいました。押し出されないように踏ん張っている姿に、周りの友達も“もしかしたら勝てるかもしれない”という期待がこもった視線で「頑張り」「あと少し」と息をのむように声援を送ります。粘り強さを見せて相手の脇に入り込むことができると、相手が手をついて見事勝利しました。すると「強いね」と拍手が起き、相手は悔しそうにしながらも「もう一回しよう」と声をかけ、もうひと勝負が始まりました。その様子を周りで見っていた子どもたちの取り組みにも変化が見られ、力で押すだけでなく、相手のズボンをつかんで持ち上げ土俵の外に出したり、自分の体をねじって相手が手をつくようにしたりと技を使って勝負することが増えてきました。相撲を始めたころは一度の戦いで歯が立たないと「勝てないから」と相手を選んでいた子も「自分でもできる」と強い相手に勝負を挑むようになり自信もついたようでした。プール活動や運動会を通して心も体も一回り成長したことを感じます。

